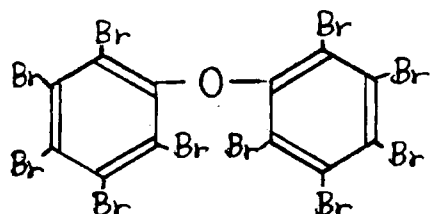


デカブロモジフェニルエーテルの分解度試験成績報告書

- 試験期間 昭和51年4月2日～昭和51年6月3日
- 試料名 デカブロモジフェニルエーテル (試料K-205)

分子式 $C_{12}Br_{10}O$

構造式



3. 試験方法及び条件

環保業第5号
薬発第615号
49基局第392号
微生物等による化学物質の分解度試験による

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

3.2 酸素消費量測定

3.1の記録による

3.3 生分解試験後の直接定量法

(a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

(b) 分析試料の前処理

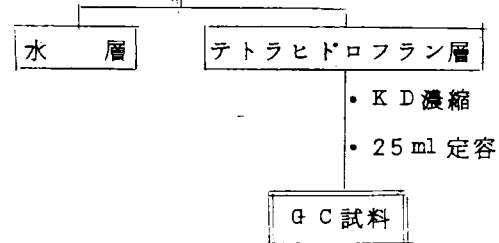
試験液	1回目	2回目
←テトラヒドロフラン	100 ml	100 ml
←塩化ナトリウム	100 g	10 g

・抽出 (振とう 15分間)

×2回

以下次頁に続く

前頁より引続き



(c) 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 240V-17

ガラスカラム 2 mmφ × 0.3 m

カラム温度 282℃

4. 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0	1	—
GC による結果	※(—)	2	1

※ 負の値を得たので(—)とした。

5. その他

直接定量において水系、汚泥系共残留量が約80%しかないのはK-205が変化し、一部中間生成物になるからと考えられる。(図-2参照)

以 上